

ち づ



智頭 議会 だより



町の花
どうだんつつじ

鳥取県智頭町議会

第141号

発行：平成30年1月19日

智頭の思い出シリーズ30



昭和38年2月6日 豪雪 PTA除雪奉仕(山郷小学校)



昨年の状況

- ☆ **補正予算を可決** ...P2
- ☆ **議会が町へ政策提言と町の事業を評価** ...P3
- ☆ **8人の議員が町政に質問** ...P5~P12
- ☆ **委員会報告** ...P13~P14
- ☆ **町民の声** ...P16



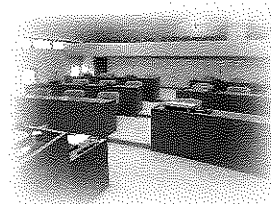
平成29年1月24日に観測史上最高の豪雪。国道53号・373号、鳥取道も通行止めとなった。自衛隊が派遣され、人命の安全確保・交通渋滞の解消にあたったことは記憶に新しい出来事です。(旧山郷小学校の除雪作業)

12月定例会

智頭病院に歯科開設など可決

12月定例会(12月8日から15日)で、平成29年度補正予算案や条例案など町長提出の19議案ほかを審議し、原案どおり可決しました。補正予算の主な内容は次のとおりです。

一般質問には8人の議員が町政をただしました。(5〜12ページ)



歯科開設費
1920万円

**空き校舎等利活用
実践事業**
416万円

**職員と特別職の
人件費**
660万円

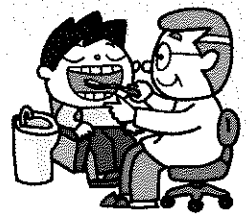
■財源
借入金
(過疎債)960万円
(病院事業債)960万円

■財源
町の貯金

■財源
町のお金

■事業概要

地域包括医療充実のため、智頭病院内に歯科を開設する費用。外来診療は週に1日で、主に訪問診療や智頭病院・心和苑の利用者の歯科治療を行う。



■事業概要

旧那岐小学校にテレワーク(※)関連企業の施設を整備する経費をいざなぎ振興協議会に補助。

■概要

人事院勧告を踏まえたものの。職員の勤勉手当0・1月分と初任給を千円引き上げなど。特別職の期末手当0・05月分の引き上げ。(いずれも平成29年4月1日から適用)

(※)テレワーク
情報通信技術を活用した場所や時間にとらわれない柔軟な働き方のこと。
今回の整備で、町内の農林業従事者が冬季の空き時間を利用し、パソコンにデータ入力などの業務を行い、所得の向上につなげる。

*議会議員の期末手当も、条例により特別職の規定を準用。

【平成29年度予算の補正】 **12月定例会** 賛成多数(議長を除く全員)で可決

区分	補正額	補正後の総額	主な補正内容(上記以外)	
一般会計	7790万円 増	62億2357万円	○林道施設災害復旧事業(2687万円) ⇒台風18号で被災した林道牛臥線の工法変更による増 ○障害者福祉費(1105万円) ⇒障害者給付費の増	
特別会計	国民健康事業 国保健康事業	17万円 増	10億9177万円	人件費の増
	公共下水道事業	14万円 増	2億8585万円	人件費の増
	農業集落排水事業	4万円 増	3億4790万円	人件費の増
	介護保険事業	576万円 増	10億2179万円	介護予防サービス費など給付費の増

商工対策や地域包括ケアシステムの構築など

議会が町長へ政策を提言

平成30年度の予算編成に向けて、次の事業・施策のさらなる充実、強化を図るよう提言しました。

① 若者定住対策の推進

② 商工労働対策

▽地元企業や商店の育成支援を推進

▽未利用の町有資産の早急な活用

③ 観光振興の推進

▽観光協会と連携した観光行政のさらなる推進

▽教育環境の再点検とその対応

⑤ 空き家対策に関する条例などの早急な整備

⑥ 地域包括ケアシステムの構築とそれに向けた

▽智頭病院の先導的役割の実施

▽地域医療の拠点として財源確保とスタッフの確保

▽健康寿命の延伸と介護予防事業の充実

▽地域との連携による「支え愛体制づくり」の構築

⑦ 農地の保全と農家所得安定化対策

▽農業の担い手の確保、集落営農、農地中間管理事業の促進

▽ホンモノの農産物・特産物の開発と販路開拓の推進

▽鳥獣被害防止対策の強化

⑧ 智頭林業の再生に向けた独自政策の強化

▽低コスト林業実現のための団地化促進と路網整備の拡充

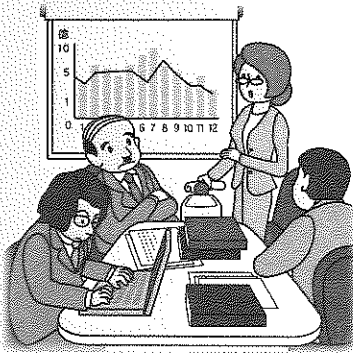
▽「自伐林家の郷」構想の早期実現

▽林産材の商品開発と販売強化

⑨ 道路、橋梁、砂防治山河川管理などの地域整備事業の充実
⑩ 民間との連携強化による地籍調査事業の促進

議会が町の事業を評価

平成30年度事業へ反映させるため、町の平成28年度事業の中から10事業を抽出し、各議員の評価をもとに議会として集約し、評価結果を町長へ提出しました。(下表参照)



【平成28年度事業のうち、下表の10事業を評価しました】

事業名	概要	H28決算額	議会の評価	理由・意見
防火水槽施設整備事業	消防、防災設備の充実 安心できる生活環境の確保	658万円 (単年度事業)	完了	設置基準を策定すべき
空き家再生活用事業	町が空き家を10年無償で借り、改修して貸し出す	268万円	見直して継続	移住者に限定せず町民も対象にすべき
住宅改修事業補助金	住宅を改修する場合、改修費の一部補助	1000万円	拡充	当分の間は継続実施すべき
疎開保険事業	町外者の被災時受入れ、特産品の発送	230万円	見直して継続	募集の努力、周知が必要
石谷邸保存活用整備事業	国指定重要文化財の保存活用	2205万円	見直して継続	入館者の減少に歯止めを
支え愛体制づくり事業	防災福祉マップ作成、避難訓練の実施などを支援	58万円	現状のまま継続	全集落が作成実施することが望ましい
健康診査事業	各種がん検診など	2503万円	現状のまま継続	受診率が県平均に近づくさらなる努力が必要
鳥獣等被害防止事業	侵入防止柵の設置補助 有害鳥獣捕獲奨励金	1688万円	現状のまま継続	事業効果の数値化が行えるよう検討
森林セラピー事業	セラピーロードの整備、森のガイド養成など	2400万円	見直して継続	利用者人数、費用対効果が十分でない
地籍調査事業	境界・所有者を調査し、地籍図などを作成	1億3372万円	拡充	職員の技術向上と予算確保に努めること

賛否で討論

①本折畜産団地の売却

11月27日臨時議会

本折畜産団地を憚らうし
ぶせファームに1783
万円で売却する議案。

土地と建物受け渡し訴訟の対象不動産を払い下げることに伴い、財産の処分について議会の議決を求められたもの。

反対討論 中野ゆかり

売払先と価格に疑義

払い下げることについては異論はない。しかし、相手方が本折畜産組合ではなく、一企業だ。また売払予定価格が、平成22年の不動産鑑定から算出されている。町民に納得していたためにも、現在の鑑定額で金額を確定すべきだ。

賛成討論 高橋 達也

双方の合意に基づく議案
裁判の過程で、原告と被告の双方が合意した内容に基づいて上程された議案である。

②智頭病院に歯科開設

12月15日例会

反対討論 都橋 一仁

三つの懸念事項がある

①民業圧迫の可能性についての検証、②現段階で民間にて提供可能サービスであるかの検証、③議会の所管委員会でも説明がなく検証が行われていない点。大筋では賛成だが、以上3点が不十分のため継続審議が妥当と考え反対。

採決の結果、賛成多数で可決。

【反対】①中野議員、國本議員（岸本議員は除斥）議案に利害関係のある議員は法の規定により採決に加わらないこと
②中野議員、岸本議員、都橋議員。

陳情の審査結果

賛成多数(議長を除く全員)で可決

採択

件名	提出者
かごやま登山道入り口ヘトイレ設置に対する要望書	富沢財産区議長 林 重範 他3団体
国定公園那岐山山頂に鳥取県側の山並みを一望できる展望台の設置に対する要望書	那岐財産区議長 川本 善造 他3団体

趣旨採択

*趣旨採択とは「願意は妥当だが実現性の面で確信が持てない」ということ。

件名	提出者
旧富沢小学校バス停より、出合橋間に消雪装置設置に関する要望書	富沢財産区議長 林 重範 他4集落

【理由】距離が1.6kmと長く、道路幅など他の方法も考えられることなど。

次ページから

一般質問について

一般質問の録画をインターネットで見ることができます。

一般質問とは、町政全般について町長などの執行部に疑問点をただし、所信の表明を求めることです。

- ※1 一般質問の内容は、質問者自らが要約・執筆したものを掲載しています。
- ※2 議会事務局で、住所・氏名を書いただければどなたでも議場で傍聴できます。人数に限り(24席)がありますのでご了解ください。

智頭町議会録画放送

検索



12月定例会には、延べ13人の傍聴者がありました。

一般質問



河村 仁志

総合計画

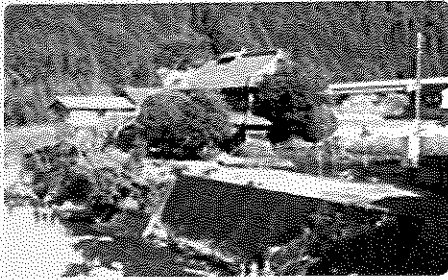
育みの郷の進捗状況は

町長／実現に向けて取り組んでいる

問 智頭町総合戦略作成から1年半経過している「育みの郷構想」の拠点となる施設整備も含めた、ハード面・ソフト面の進捗状況はどうか。

人の参加者があり、今年度も現在360人の参加者となっている。福祉課と連携を図り、赤ちゃん訪問にも同行している。ハード面では、産前・産後ケアを中心に、コミュニティ

答 町長 「育みの郷構想」は昨年度、女性と子どものサポートセンターをほのほの内に設置。「いのちね」に対し、女性・子どもに関する相談、ヨガ教室、月経講座を開催。昨年度は町内外から280



育みの郷の拠点施設の古民家
(奥部の中央：中原地内)

機能の有した宿泊施設を検討中。本年度、一部設計と工事の着工を目ざしている。

問 包括的な体制の整備は現在どのような行われているか。

答 町長 5年・10年サイクルでの事業であり、サポート体制の構築を図るため、庁舎内にプロジェクトチーム（特定事業の検討会）を編成し、月に1回程度の会議を開催。関係課との連携可能な事業の整理や課題解決の模索を行い、取り組んでいる。

問 森の教育環境の支援に基づく在り方についての方針は。

答 町長 サドベリースクールは土曜日クラスを目ざすもの。森の教育環境の拡充と生き方を選択する田舎流人生設計で、子育ての選択肢が広がり、子どもを産み・育てたくなる町と魅力を向上させ移住の増加を生み出そうとするもの。親育ちの場として活動の森のよううちえんは、ユニークな子育て事業として高く評価されている、引き続き支援を行う。



サドベリースクールで使用されているログハウス(新田地内)

問 前回の豪雪と同じ事態が考えられる。空き家をシェアハウス（二つの住居を複数人で共有して暮らす賃貸住宅）として活用し、一人暮らし高齢者の冬季支援事業として考えてはどうか。

答 町長 実態調査の結果では希望者が少なかつた。必要とされる方が増えれば冬季の支援対策の一つとして検討する。モデル地区をしかるべき地区と相談しながら前に進める考えもある。

一人暮らし対策

<p>町長／支援対策として検討する</p>	<p style="text-align: center;">冬季の支援事業でシェアハウスは</p>
-----------------------	---



都橋 一仁

医療・食健康
プロジェクトチームの必要性は
 町長／各課連携を深めたい

問 町民の健康増進には歯周病による全身の合併症、並びに食べ物による悪影響について

答 町長 歯周病予防並びに糖質をコントロールする食の重要性について、山村再生課・教育課を含め各課が共通認識を持ち、問題解決に努めていきたい。

智頭病院開設
歯科誘致の必要性は
 町長／歯科を開設する

問 訪問診療では治療に限界がある。智頭病院内に歯科を開設する必要があるか。

答 町長 平成30年4月から歯科診療を開始することとしている。

問 町内の歯科医師と

事前に調整がなかった点についていかがお考えか。

智頭病院申請
往診特区の申請は
 管理者／一つの方法とは思わない

問 顔見知りにお会いするのが嫌で、鳥取市内の病院に通院している方もいる。地方の医師不足という社会的な問題もある。そこで往診しなければならぬ絶対的な理由がなくても、山間地域の医療を守るため、また医師の労務を軽減する目的で、看護師・薬剤師が往診に出

答 事業管理者 特区で看護師・薬剤師で訪問を始めるということも一つの方法と思うが、まずは医師の確保に全力投球したい。

問 事業管理者 今まで検討に検討を重ねてきたところだ。町内の歯科医師との棲み分けをしていきたい。

型技術
電子地域通貨を導入する考えは
 町長／今の段階で考えていない

問 既に他地域では電子地域通貨が発行されている。そこでマイナンバーとセットにした

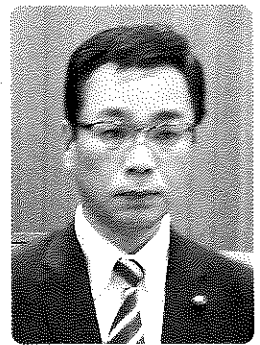
住民台帳管理も兼ね備えた電子通貨導入の考えは。

答 町長 住民台帳管理を含め、鳥取県全域で進んでいる。町単独で先行的に取り組みつもりはない。

問 ビットコイン(※)が今年の4月に10万円くらいであったのが、12月初旬現在で230万円と20倍以上になっている。あの時やっておけばよかった。そのように思わなければよいと思うが。

答 町長 否定するわけではないが、時少し早いかなどという感じは否めないということが正直な気持ちだ。

(※)ビットコイン
 インターネット上で取引できる仮想通貨



大河原 昭洋

林業景観

文化的景観で今後の展開は

教育長／新たな地域活力や夢につなげる

問 文化審議会の答申により、智頭宿から芦津集落までの国道や県道、千代川水系北股川一帯が、林業を通じて形成された景観として全国で初めて国の重要な文化的景観に選定されることが決まった。

長年の林業の歴史を通じて形づくられた景観が評価されたということであるが、本町の文化的視点において、今後どのような展開を考えているのか。

答 教育長 この景観をどのように守り、伝え、生かしていくかは、広く町民の理解と協力を得ながら保全と活用を進め、新たな地域活力や夢を生み出していく源としたい。

問 保護の対象になったことで外観に手を加えたり開発しようとした時に何か制限があるのか。また、景観保護には国の財政支援が受けられるが、どのようなことが対象なのか。



樹齢350年以上の智頭杉

答 教育長 保存に影響を及ぼすような変更には届け出の必要はあるが、通常の生産活動や林業活動、非常災害の作業には何ら制限はない。

重要な構成要素の家屋などの修理、修景、復旧、防災工事は整備費に国庫補助が適用される。固定資産税も課税標準額が2分の1に軽減される場合もある。

移住定住

町民の満足度向上が近道では
町長／人生よかったと思える福祉を旨とする

問 総合戦略の「智頭町の将来像の実現に向けて」今後どのような視点で移住定住策を推進する考えなのか。

答 町長 「林業と福祉」をテーマに、93%が森林の町でどのような福祉ができるのか現在模索している。

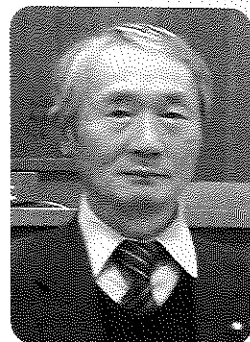
答 町長 人口推計では20歳から34歳までの若年層の減少が見受けられるため、大学卒業後に帰ってきたくなるようなUターン重視の施策を考える。

人の奪い合いではなく喜んで人が来る、町民も喜んで福祉の町の中で生きていく、小さいながらもそのような生きざまができる町を目指したい。

問 他の市町村との人口獲得競争が注目される地方創生に最近違和感を覚える。町民の満足度を向上させる政策を推進することが若者の定着や移住者の増加につながるのではないか。



ゆめが丘団地に整備された住宅



岸本 眞一郎

新図書館

まちづくり・にぎわいづくりは
教育長／すべての住民が集う交流の場へ

問 図書館建設に向け

て予定地選定や基本構
想案がほぼ固まったよ
うだが、図書館の知識
と情報の拠点という価
値観はかわらないと思
う。若者の活字離れや、
スマホなどのIT（情
報技術）化の進展など
大きな変化が起きてい
る。今後の具体的な運
用はどのように考えて
いるのか。また、基本
計画の柱と進捗状況は。

答 教育長 今後の図

書館整備に当たっては、

蔵書数や閲覧スパー
スの拡大や高齢者・障
がい者が利用しやすい施
設のバリアフリー化（移
動の障壁を取り除く
こと）、キッズコーナー
（子どもたちの遊び場）
や若者達の居場所とな
るICT（情報通信技
術）環境の整備などで
29年度内に計画の策定
を行う考えである。

問 現在の利用者数と

新図書館の目標とする
利用者数は。

答 教育長 昨年度の

1日当りの貸出し者数
は平均36・0人で、智
頭町総合戦略の新図書
館の目標来館者数は年
間1600人で1日当
り56・5人としている。

問 図書館への一般認

識は、借りたい本がそ
の場所にあるというこ
とにとどまっている。
まちづくり、にぎわ
いづくりへの活用方法
はどのように考えるか。

答 教育長 現在進め

ている図書館づくりは
子どもから大人まで全
ての住民が集う交流の
場、活動の場を目ざし、
新たなまちづくり、に
ぎわい創出の拠点とな
るよう整備する。

病院改革

改革プランの設定要件は
管理者／国の動向を注視し方向性を決定

問 智頭病院は町民に

とって健康で安心して
暮らせる大きな拠り所
だ。

答 事業管理者 プラ

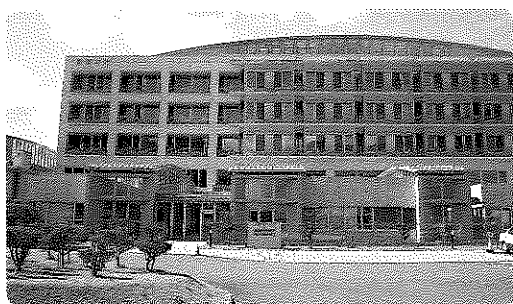
ン策定には介護療養病
床など病床再編が大き
な要素になる。

町内や診療圏人口の
減少や国が進めている
地域医療構想、さらに
退職医師、看護師の補
充などの課題がある中
で、今後の持続的経営
の指針となる病院改革
プランをどのような考
えのもとに策定するの
か。

さらに医師、看護師
の確保なども併せて国
の動向を注視しながら
医療法などの改正の詳
細がわかりしだい当院
の方向性を決定し、平
成30年度から3カ年の
目標設定を行う。



図書館建設候補地



地域医療の拠点・智頭病院



大藤 克紀

旧町民体育館

町長／慎重に検討を進める

多目的室内運動場として利用しては

問 体育館が誘致企業より返却されたことで、館内を改修し多目的室内運動場として、中学校の部活動、少年野球などが雨天時や冬、季間のトレーニング場として町民の皆さんに開放してはどうか。

答 町長 現在、社会体育施設としての利用は考えていないが、今後体育施設として利用する場合、築後35年が経過しており、大規模改修が予想されるため

慎重に検討を進めていく。

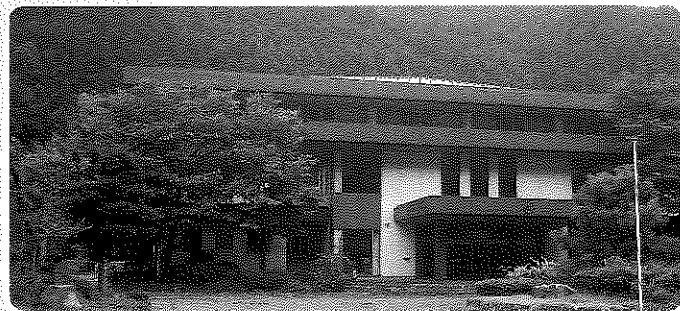
問 解体撤去となれば莫大な費用がかかるが、その費用を耐震、改修に充ててはどうか。保護者の方々から、そういう意見が聞かれるが、どう思われるか。

答 町長 町民のために活用するのは当然前のことであるが、危険性などを心配しながら利用することは行政としてはよくないこ

とであり、慎重に検討する課題である。

問 有事の時の避難場所として活用すべきではないかと思うがその考えはないか。

答 町長 雨漏りがしたり老朽化しており、町としては慎重にならざるをえない。時間を頂き検討する。



利活用が検討される町民体育館

地区振興協議会

町長／財政支援の継続は10年を期間とする

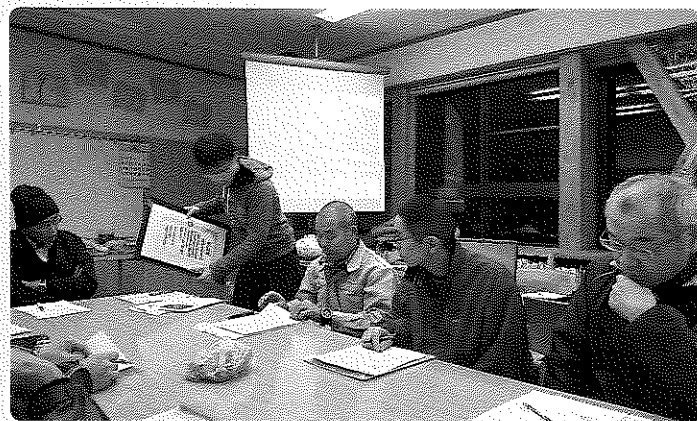
10年を迎えた地区への財政支援は

問 今年度で10年の節目を迎える地区振興協議会があるが、今後の財政支援をどのように考えているのか。

答 町長 集落単位から地区単位に移行する過程であり、地区の皆さんと相談しながら、要望があれば予算計上する場面もある。

答 町長 地区の自立に向けた活動を継続可能とすることが目的であるため、財政支援の継続は10年間で終わりと定めがあるので支援は考えていない。

問 地域おこし協力隊や集落支援員など今後の人的支援をどのように考えているのか。



自立検討委員会の様子



中野 ゆかり

しんりん 森林セラピー

利用者の推移と分析は

町長／減少傾向。自然災害が絡んでいる

問 森林セラピー事業が始まり7年経過した。現在までの利用者の推移と分析は。

答 町長 森林セラピー事業が始まり7年経過した。現在までの利用者の推移と分析は。自然災害が絡んできている。

答 町長 初年度は1544人、その後平成27年度までは1400〜1500人前後で推移してきた。平成28年度は鳥取県中部地震の影響によりキャンセルが相次ぎ、924人となった。今年度は豪雪に伴う融雪災害により、8月まで芦津セラピーロードが利用できな

問 本町が開発した森林セラピーのアプリ(機能)について問う。何人登録し、実際本町の森林セラピーを体験した人は何人か。

答 町長 現時点で2956人登録している。どれだけ誘客があったかは調べようがない。



セラピーガイド(右奥)の様子

問 大阪の万博公園や東京の浜離宮でも、森のガイドと歩く森林セラピーイベントを開催しているが、その目的と効果は。

答 町長 本町まで来てと言っても、交通費などで来られない方もいる。そこで、東京、大阪、京都、有馬温泉とかで地道に開催し、セラピーとはいかなるものかを少しずつお伝えしている。

しんりん 森林セラピー

オープン予定と、集客目標、計画は

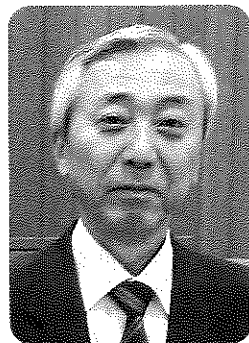
町長／来年夏ごろグラントオープン予定

問 天木と横瀬に新設中の森林セラピーロードはいつオープン予定か。また、その際の集客目標、計画は。

答 町長 横瀬は非常に谷川がきれいだ。病院に何年も入っておられる方が、たまには車いすでせせらぎや鳥のメージ。グラントオープンは、来年の夏ごろを考えている。集客目標や計画は、1たす1は2の世界ではない。



冬も楽しい森林セラピー



高橋 達也

智頭スギ
町長／ビジョンの具体化の中で検討

利用促進の条例制定を目ざしては

問 智頭林業・木材産業再生ビジョン（※）の改定作業の状況は。

答 町長 鳥取大学や智頭町森林組合と連携しながら進めている。具体的には、智頭の林業景観をつくり上げてきた方々から、林業技術や智頭林業への思いなどを聞き取りし、聞き書き作品として残す。これを整理・検討し、魂の入ったビジョンづくりを進め、来年度には策定したい。

問 以前に「智頭林業憲章」のようなことも盛り込む必要があるとの答弁があつたが。

答 町長 ビジョンの土台となる聞き書きの成果をもとに、ビジョンの冒頭に智頭林業憲章を組み込みみたい。

問 公共建築物だけでなく、一般住宅なども対象にした智頭スギの利用促進を図るための条例制定を目ざしてはどうか。

答 町長 趣旨は理解できるが、まずはビジョンに掲げる内容を具体化していく中で、智頭スギの利用促進についても検討要素の一つであると認識している。



手入れをされたスギ林

（※）智頭林業・木材産業再生ビジョン

平成19年11月に町内の森林組合、林業団体等と行政の代表者が一丸となって再生会議を立ち上げ、平成20年3月に策定・公表された4項目の主要課題（①低コスト林業の推進、②智頭材の需要拡大、③癒し・憩いの森林づくり、④木質バイオマスの取り組み）について、10年間の展開方向を示している。

大麻栽培地
町長／自生大麻の経過観察が必要

営農再開を望む声への早期対応を

問 営農意欲のある地権者が、来年から水田営農を再開し、順次拡大したいとの意向がある。「負の遺産」を早く払拭し、「定年帰農の郷」のようなイメージ復活が望まれる。

答 町長 大田大麻の経過観察が必要。また、残存する種子から発芽する自生大麻の抜き取り作業を、県と連携しながら行っているが、来年の春以降も経過観察が必要と思われる。

問 水路状に深堀されている農地の復元などを含め、地元へ状況説明をすべきでは。

答 町長 町が勝手にできない部分があり、元栽培者と会えない現状の中で地元で説明しても気分を害される。解決の努力は惜しみなくやっている。



大麻が栽培されていた農地の一部



誠一 國本

部落差別解消
部落差別解消法施行一年を経過して
町長／差別解消推進を明記した意義ある法

問 昨年12月に施行された部落差別解消推進法も、早1年が経過しようとしている。町としてどのように取り組んでいるか。

進に努めるとともに、インターネット上における同和地区に対する差別書き込みを始めとする、あらゆる差別の

答 町長 この法成立の成果は、国が部落差別の存在を認め、差別の解消を推進しなければならぬと明記した点において意義のある法律だ。本町ではこれを解消することが重要な課題であるとの認識のもと、教育啓発の推



パソコンでも携帯電話でもインターネットでの情報発信には慎重に...

解消に向け、書き込みの削除要請など必要な施策を積極的に取り組む。また、この法では、「国は部落差別の解消に関する施策の実施に資するため、地方公共団体の協力を得て、部落差別の実態に係る調査を行う」とされている。国及び県の動向を踏まえ、調査を実施したい。

部落差別の解消の推進に関する法律（抜粋）

目的

第一条 この法律は、現在もなお部落差別が存在するとともに、情報化の進展に伴って部落差別に関する状況の変化が生じていることを踏まえ、全ての国民に基本的人権の享有を保障する日本国憲法の理念にのっとり、部落差別は許されないもの

消防団
購入に際し補助ができないか
町長／町消防団と協議し検討

問 町内会・集落で可搬式小型ポンプ移動用の自動車を購入する時、補助などの支援は考えられないか。

答 町長 消防小型ポ

ンプを運搬する車両の確保に困難があることは、情報により認識している。町消防団と協議しながら効果的な支援を検討中。



自費で整備された軽トラ

であるとの認識の下にこれを解消することが重要な課題であることに鑑み、部落差別の解消に関し、基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務を明らかにするとともに、相談体制の充実等について定めることにより、部落差別の解消を推進し、もって部落差別のない社会を実現することを目的とする。

ゆめが丘団地の視察など

所管に関する主な事務事業について報告します。

8月28日

関係各課から事業の報告を受け行政評価5事業の抽出作業。

9月8日

9月定例議会に上程された、一般会計補正予算案などを審議。所管の議員発議（「交通安全宣言」や「全国森林環境税」に関する意見書）を審議。

9月18日

決算特別委員会の所管案件を審議。

10月23日

議会による「行政評価」と「政策提言」を町長に提出。（総務委員長が同席）

11月27日

臨時議会に上程された、物品購入計画や財産処分など4議案を審議。

12月8日

12月定例議会に上程された、所管に係る議案の審議や関係各課の現況説明を聞く。陳情2件を審議した後、入居が完了した移住定住事業に係る「ゆめが丘団地」を視察。



4世帯入居が完了した「ゆめが丘団地」(三田地内)

地域医療の先進地を視察

視察日 10月27日

視察地 兵庫県西脇市 市立西脇病院

視察のまとめ

西脇小児医療を守る会の活動を学びました。同会は、小児科の医師が1人になり、入院診療ができなくなったことをきっかけに、母親たちが集まり、平成20年1月に会を立ちあげ活動を始めました。活動の結果により平成21年4月から、医師が1人増え入院診療も再開されました。これからの活動としては、子どもを安心して産み育てられる環境をつくるために勉強会、活動を中心に分たちちができることを続けていく、ということでした。

今後の智頭病院のあり方を考える時、社会福祉協議会・智頭病院・行政の三位一体の体制のもと、智頭町も地域医療のあり方、行政との協力のあり方、住民との関わり方を検討しながら、実施していく必要があると感じた、大変参考になる視察でした。

また、主に医師派遣について西脇市多可郡医師会も協力、地域医療を守る条例



院長(中央奥の白衣)自ら経過を説明

認知症予防施策、移住・定住を学ぶ

■調査日

11月14日～15日

■参加議員

12人全員

■目的

本町のまちづくりを推進するため、先進事例の調査

■調査地と概要

①大分県宇佐市安心院総合保健福祉センター

【認知症予防施策】

大分県北部に位置し、宇佐神宮をはじめ、文化財の宝庫と称され、古くは古事記・日本書記に記載されています。平成17年3月1日に1市2町が合併して現在の宇佐市となりました。人口は約5万7千人、高齢化率（65歳以上）は34.2%です。

初めに、健康クラブ利用者の高齢者の方々と視察議員全員で、転倒予防体操を認知症フアンリテーター（※1）の指導のもと30分間実際に体験しました。

安心院健康クラブの取り組みは、平成14年から旧安心院町が福岡大学と連携して、認知症予防の啓発と認知機能検査を実施するようになり、「認知予防のための安心院プロジェクト」で運動療法と作業療法の組み合わせで、現在毎週3回予防体操を行っています。NHKの健康番組で紹介され、一躍知られるところとなりました。利用者の方も90歳前半から80歳代と思えないくらいに、元気に活動されていたことが印象的でした。

②熊本県小国町小国町役場

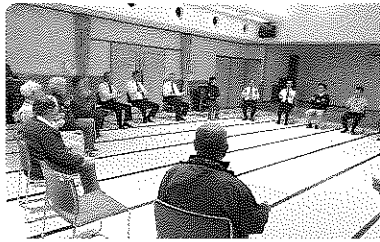
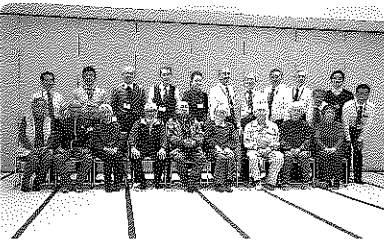
【移住・定住施策】

町の面積は智頭町と比べ6割程度で面積の74%を山林が占め、人口は7300人の農山村地域です。行政とグリーンツーリズム協会・学びやの里が一本化し、「小国暮ら

しの窓口制度」はワンストップ（※2）の総合窓口として、移住定住に関する事業全般で実績を残している先進的な取り組みでした。暮らしの窓口と連携した移住者の暮らしをアドバイスし続ける活動や、住民と協働する仕組みを導入しています。

※1フアンリテーター
中立的・客観的立場から適切なサポートを行う調整役などを担う人

※2ワンストップ
一箇所ですべての用事が足りること



転倒予防体操を利用者と一緒体験（宇佐市 安心院総合保健研修センター 上3枚）



移住・定住施策を学ぶ（小国町役場）

「これからの議員像」など 認識を深める

鳥取県町村議会議員研修会

■研修日…11月24日

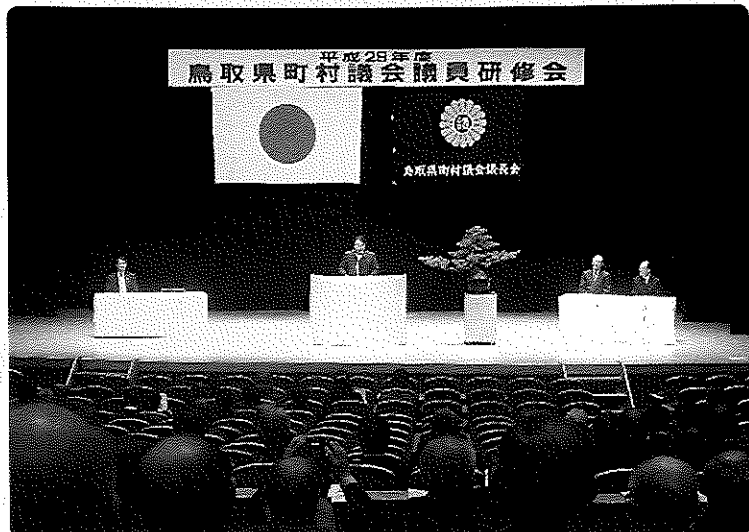
■場 所…湯梨浜町

「ハワイアロハホール」

■参加者…議員12人全員

■研修概要

鳥取県町村議会議長会の主催で、毎年この時期に県中部で開催され、県下の15町村議会議員約180人が参加しました。



川上守議長会会長(若桜町議会議員)の開会あいさつ

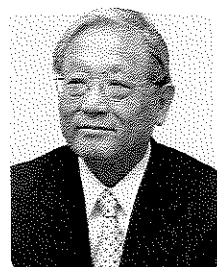
【講演①】

▽演題

地方議会人の挑戦
〈町村議会の改革と課題〉

▽講師

明治大学名誉教授



なかむら あきら 氏
中邨 章 氏

▽要旨

これからの議員像として、次の5項目が提示され、改めて認識を深めました。

- 1 国・首長に立ち向かう議員
- 2 Look Around (ルックアラウンド) Ⅱ 周囲を見渡す Ⅱ 外部志向のつよい議員
- 3 ICT(情報通信技術)を駆使できる議員
- 4 勉強する議員、族(特定の専門性)を目ざす議員
- 5 むかしをふり返らない議員

【講演②】

▽演題

▽講師

日本の政局・政治の行方
テレビ朝日コメンテーター



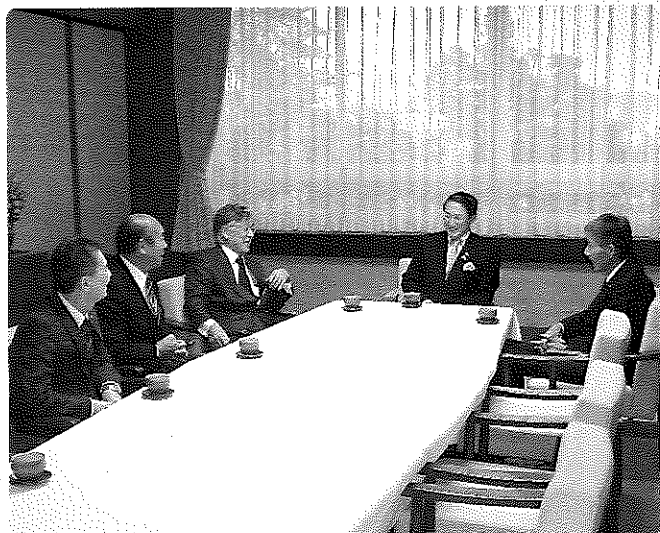
かわむら こうじ 氏
川村 晃司 氏

国道53号 智頭トンネルの防災対策を

平井知事に要望

今年の5月31日以来、智頭町市瀬地内の智頭トンネル(智頭側坑口部付近)が、降雨に伴う溪流からの土砂流出とその恐れにより、3カ月半で11回も全面通行止めになるなど、生活環境に大きな影響を及ぼしています。

このため、防災対策の早期完成と、通行規制基準の緩和について、平井知事に要望しました。



西川県議(右)の同席のもと、寺谷町長、谷口議長、河村民生常任委員長(左)が、平井知事(中央)に要望。(12月1日 県庁応接室)

12月25日に同じ顔ふれて、広島県の国土交通省中国地方整備局において、川崎局長、富樫道路部長に同様の要望を行いました。

山形の多くの皆さまに支えられて感謝

山形郵便局長 ささおともふみ 笹尾 朋史さん



(左から)
笹尾局長、大坪さん、谷口さん

4度目の山形局の冬

山形郵便局に着任し4度目の冬を迎えました。多くの皆さまに支えられ、今日を迎えられましたことに感謝申し上げます。

普段、仕事をしているとこんなことを言われることがあります。「あんたのお父さんに昔、世話になってなあ」。その言葉のお陰で仕事がうまくいくこともあり、また以前勤めていた局では、苦情にならずに助けられたこともありました。

亡き父に感謝
父が亡くなり20年近くになりますが、未だに親離れ

ができず父に守られていることに感謝。そして、決して自分だけの力で生きていくのではないと実感しています。それこそが、父が私に遺してくれた、人と人との出会いという財産なのだと気付かされます。家の中では無口な父でしたが、外では自分の知らない父の姿があったことに、嬉しさも覚えます。生きていればお札を言いたいところではあります。今となってはそれも叶いません。

子に受け継ぎたい出会い

自分自身も親となり、今後どれだけの出会いを子どもに遺してやるだろうか、思うことがあります。

山形での日々のお出合いは私にとってかけがえのないものですが、本当にお役に立っているのか自問自答の毎日。これらの出会いが、子どもにも受け継がれるも

のであってほしいと願います。

いつか子どもが、そんな風に思ってくれば嬉しいですが、5歳になる息子にとっては、あまり興味の無い話のようです。



つくろうよ 事故なし 笑顔の鳥取県

鳥取県交通安全スローガン

智頭町議会は「交通事故のない安全・安心なまちづくり宣言」を決議しました。



(平成29年9月20日)



編集後記

表紙を昔の写真シリーズで継続するかどうかを議会広報モニターの方にアンケートを行った結果、継続が11人、見直しが5人でした。このため当面継続することとしました。

9月29日、30日に全国町村議会議長会が開催した広報研修会に参加しましたが、広報コンクールでの全国上位の「議会だより」も、表紙はシリーズもので継続しているものが多く見られました。

この研修会で、内容、記事、見やすさなど、教わることも多くありました。全国上位の紙面に近づけるよう、また、町民の皆様に分かりやすく親しみやすい紙面の作成を心がけて行きます。

編集 議会広報常任委員会

- 委員長 都橋 一仁
- 副委員長 安道 泰治
- 委員 國本 誠一
- 委員 高橋 達也
- 委員 大藤 克紀
- 発行責任者 議長 谷口 雅人